

会報 (第3号)

目次

- 日ア関係の新時代
- (附) 賛助会員の募集
- 大統領の訪日結果 (総まとめ)
- アルゼンチン便り
- 日本の中のアルゼンチン



法人 日本アルゼンチン協会

会報第三号一九九四年一月三十一日発行
編集兼発行人 薄井康夫

千代田区内幸町一ノ二ノ二
日比谷ダイビル一七〇五号室
電話 (三五〇一) 四六八四番
FAX (三五九五) 三九三二番

日ア関係の新時代

昨年末に実現をみたメネム大統領一行の訪日は、その内容に於いて、日ア関係の将来をトする顕著な足跡を印した。訪日中に表明されたア国側の対日姿勢について、次の諸点を見逃すことはできない。

(1) まづペロン政権時代に胚胎した旧来の経済政策について、その失敗面に対する率直な反省があり、これからの国際経済に生き抜くためには、市場経済の活性化を第一義とする方針が明確に打出されたこと。

(2) 世界経済ブロック化の趨勢に即応し、北米自由貿易圏 (NAFTA) や南米共同市場 (MERCOSUR) を中軸としながらも、アジア経済圏との交流を志向すること。就中、わが国からの投資や技術提携を大歓迎することが異口同音に語られたこと。

(3) その具体策としては、戦後に於ける日本の経済復興を手本とし、その体験

に基づく大^{おおき}采リポートをア国経済復興の手引とすること。

顧みて、1970年～1980年代を通じ、日ア間の貿易乃至経済交流は低迷を免れなかった。今回表明されたア国側の対日姿勢は、メネム政権の国内施策の実績を背景とし、その豊富な天然資源と労働力を用い、日ア協力により開発せんとする意図を明確化した。正しく、両国関係における歴史的な出来事ともいえよう。

冷戦終結後に於ける世界の政治経済の趨勢を考えると、「敬愛する日本の方々よ！どうかアルゼンチンに対し関心をもって戴きたい」と熱っぽく語りかけたメネム大統領の言葉は、単なる外交辞令の域を遙かに脱しているものと信ぜられ、21世紀へ向けて、各界における新展開を期待したい。(編集子)

賛助会員の募集 — 文化活動へ参加のお誘い —

ア国官民の熱心な呼びかけに応え、当協会では、国民ベースでの相互理解に資するため、文化活動を主眼目として、賛助会員制度の活性化を図る方針です。具体的には、近く有志各位により、募集活動が開始される予定ですので、募集要領を以下に記してお知らせと致します。

何卒正会員の皆様のご理解とご支援を賜りたく願ひ上げます。

◎ 賛助会員について

- (1) 正会員と異なる点：総会の構成員ではなく、議決権、役員選挙及び被選挙権はないこと。
- (2) 上記以外は原則として正会員に準じ、
 - (イ) 会報の送付 (ロ) 親睦会、各種文化サークル活動の案内を受け、選択的に参加できる。
- (3) 賛助会員の年会費は¥5,000.-とする (正会員は現在¥10,000.-)
- (4) 申込は前項年会費を指定口座 (別途準備中) に振込むことに依り、賛助会員リストに登録される。

なお、正会員の登録については、従来通り事務局を通じお手続き願ひます。

以上

メネム大統領一行訪日結果（総まとめ）

メネム大統領は1993年11月30日から12月3日迄公式訪問されました。

一行は総勢約70名、内、公式随員はデイテラ外務大臣、カバーロ経済大臣、バルサ陸軍参謀総長、ドウアルデ ブエノスアイレス州知事以下約30名、支援随員約20名、経済財界人約20名という構成でした。

大統領は天皇陛下とのご会見、宮中午餐会出席を初め、政府関係は細川総理との首脳会談、総理主催夕食会出席、大蔵大臣、衆参両院議長、友好議員連盟、OECD、JICA、輸銀、各総裁への表敬、民間関係は経済6団体並びに日本アルゼンチン協会主催昼食会、在日亜国大使館主催、JOI／大来財団／日亜経済委員会共催の“アルゼンチン経済、貿易、投資セミナー”、大来財団主催朝食会出席、学術関係では慶応大学名誉博士号授与式出席等の日程を精力的にこなし、さらに2晩にわたり大統領主催で日本の各界にわたる関係者を招待しレセプションを行いました。

上記の精力的活動を通じての訪日の主要な成果は次の通りです。

1. 環境ODA（政府開発援助）円借款供与

日本政府よりOECD（海外経済協力基金）を通じての亜国向け初の81.5億円の円借款供与の意図表明がありました。対象プロジェクトは首都ブエノスアイレスの北部にあるレコンキスタ川流域における衛生環境改善事業にて、家庭排水等により汚濁の激しい同河川の改修及び下水処理場／排水ポンプ場の建設、放水路の整備等を行うものです。事業総額は約350億円、円借款以外の資金はIDB融資と亜国政府の資金供出で対応します。

2. 対亜貿易保険枠拡大

政府（通産省）は新たに4億ドルの貿易保険の引受枠を設定、内訳は短期貿易保険3億ドルと中長期保険（海外投資保険を含む）1億ドルで期間は1年間、中長期は1件当たり30億円程度の優良案件を中心に引受けます。

3. 輸銀バンクローン供与

日本輸出入銀行は亜国政府が1993年に新たに設立した投資貿易銀行（BICE）向けに3億ドル相当円貨のバンクローンを供与します。本ローンはアンタイドロー

ン（資機材調達先を日本に限定しない貸付）で亜国政府は調達した資金をBICEに転貸し同行から民間銀行を通じて国内の民間企業に貸付ます。

4. 大来レポート第2次調査、改訂版作成

故 大来佐武郎元外務大臣が亜国政府の求めで1985年から3年間かけて経済開発の問題点と処方箋を指摘、提言した調査報告書はいわゆる“大来レポート”として急速なる経済回復を達成した亜国政府の経済政策に大いに寄与しましたが、レポートから6年の歳月がたち経済状況が大きく変化し、貿易赤字の拡大等新たな問題も表面化してきている為、今般、日本政府がJICA ベース開発調査案件として同レポートの第2次調査、改訂版作成に協力することになりました。改訂版では、現在の経済状況についての調査、評価とともに21世紀へ向けての新たな成長の戦略、特に世界の一大成長圏となった日本を含む東アジアとの経済関係の強化や外国投資を活かしての輸出競争力の強化の為の方策について提言が行われる見込みです。

次いで大統領訪日時における日亜経済合同委員会と大来財団の活動について報告します。

A. 大来財団

12月3日大来財団主催の朝食会に亜国側はメネム大統領、デイテラ外務大臣、カバーロ経済大臣、アルチョウロン大来財団会長以下約50名、日本側は小宅駐亜日本大使、河合大来財団日本委員会世話役以下委員会委員並びに東京支部メンバーを主体に約20名が出席、約1時間に亘り上記4項の大来レポート第2次調査、改訂版作成につき突っ込んだ意見交換が行われました。特に、メネム大統領から第1次大来レポートに対する謝意と第2次調査に対する多大なる期待が表明され、これに応え、財団アルチョウロン会長、河合／諸橋日本委員会委員より“(本件合意は両国政府ベースではあるが) 民間の大来財団としても従来 of の経緯よりして財団日亜双方にて協力、支援する”旨の決意が表明されました。

B. 日亜経済合同委員会

12月2日日本商工会議所、経済団体連合会、日本経営者団体連盟、経済同友会、日本貿易会、日亜経済委員会、日本アルゼンチン協会の7団体主催による歓迎昼

食会（約130名参加）が開催され、稲葉日本商工会議所会頭が代表挨拶にて“1966年発足以来4半世紀以上にわたり両国経済界間の対話と協力促進に大きな役割を果たしている日亜経済合同委員会の継続的活動を評価し、今後共日本経済界が同活動を中心に両国経済関係の強化に資してゆきたい”と述べられました。

続いて、12月3日に在日亜国大使館主催、日亜経済委／海外投融資情報財団（JOI）／大来財団共催、輸銀／JETRO後援による“アルゼンチン経済、貿易、投資セミナー”が約2時間に亘り開催され亜国側よりはメネム大統領、カバーロ経済大臣、アルチョウロン大来財団会長、ゴメス亜日経済委員会会長、日本側よりは内海慶応大学教授／大来財団日本委員会委員（前大蔵省財務官）の講演がなされました。セミナーには諸橋日亜経済委員会会長／東京商工会議所副会頭をはじめ（日亜経済合同委の主管たる）日本／東京商工会議所、JOI、大来財団の各メンバー企業代表を主体として関係者約180名が参加、充実した講演内容と配布資料は亜国側の意気込みを示すものと好評を博しました。また、セミナーの後ガブリエリ亜国メンドサ州知事招待、JETRO後援による亜国産ワインの試飲会が催され100名以上の参加者がアルゼンチンの味を楽しみました。

以上報告の通り今回の大統領一行訪日は大統領自らが急速なる経済回復を達成した新生アルゼンチンの現状を日本官民に知らしめる大いなる機会となり、日本側もこれに応え日本政府の円借款供与をはじめとする上記4項目や民間の主要団体による各種セミナー／懇談会の開催等日亜関係の緊密化に向けての協力姿勢が示されました。またこの間、カバーロ経済大臣が公式日程の合間をぬって亜国経済財界人代表とともに日本の有力民間企業を訪問し貿易、投資関係の強化を要請してまわったことは過去には見られなかった官民一体となった亜国側の対日関係強化への積極姿勢を示すものと強く印象に残りました。

齊木茂治 記（筆者は大来財団東京支部事務局幹事）

◎メネム大統領に記念品贈呈

歓迎昼食会に先立ち齊藤会長（近藤四郎副会長同行）はホテル・オークラに於て大統領とご歓談の上、当協会としての記念品（輪島漆器の置物）を贈呈された。

アルゼンチン便り

◎会議所だより

以下の3項目は在亜日本商工会議所（白鹿会頭）発行の会議所だより'93-11月・12月号より抜粋させて戴いたものです。

◎カバーロ経済公共事業相との懇談会

カバーロ経済相の訪日に先立ち、11月24日(水)昼、シーザーパーク・ブエノスアイレスに於いて、経済相、経済省官僚（マジョラル次官、ハルテネック次官ほか）及び日亜経済関連団体代表（ゴメス日亜経済合同委員会亜国サイド委員長、フラギオ亜日協会会長ほか）と当会議所理事会役員との間で懇談会がもたれました。白鹿会頭の挨拶の後、カバーロ経済相より訪日目的の説明及び、大臣の訪日時の活動に対する参加者の要望或は示唆が質問されたのに対し、瀧波専務が会議所を代表してコメントを述べ、その後質疑応答。また会議所投資ガイドブック作成セクターを若杉委員長より「アルゼンチン投資案内」日本語版が手交されました。

◎成長する国・アルゼンチン（アルゼンチンへの投資案内）

当会議所投資ガイドブック作成セクター（委員長：若杉征一郎「丸紅」）がメネム大統領訪日にあわせ、経済公共事業省投資局発行の“A COMPENDIUM FOR FOREIGN INVESTORS”（英語）の日本語版「成長する国・アルゼンチン（アルゼンチンへの投資案内）」を作成致しました。なお別冊の「亜国税制マニュアル」は当地に駐在している商社の総務、経理担当者グループの方々が別個に製作したものです。偶々本案内書税制部分と出典が同じものであったところから、お願いして使用させて頂いております。

◎日亜経済合同委員会

第16回日亜経済合同委員会は94年11月10日～11日、東京にて開催される予定です。

現地経済指標

1. 為替1ペソ = 1米ドル

2. インフレ率

消費者物価指数 1993年12月分(対前月比)0%

1～12月 累計 7.4%

この年間インフレ率は、小売価格を基礎として計算された国家統計局の発表による。

因みに、過去39年間を通じ最低を記録したのものとして注目される。

3. 旅行者用データ

(1) 5スター級 シングルー泊(朝食付)

250米ドル + 付加価値税(18%)

(2) レストラン

和食(定食) 19～29米ドル

現地食(焼肉等) 25～55米ドル

(3) タンゴハウス 35米ドル

◎エンリケ・ロス元駐日大使の逝去

らぶらた報知紙('93-12-28)によれば、極東通として知られた元駐日大使エンリケ・ロス氏が暮れの20日にブエノス市に於て逝去された模様です。(ここに謹んで哀悼の意を表します)

日本の中のアルゼンチン

◎サンチス新任大使の歓迎宴

大統領の訪日と重なり、日程繁忙のため、今回は恒例の歓迎パーティーに代えて、斉藤会長主催による同大使の歓迎招宴が11月24日夕刻、麴町の料亭「西川」に於て取行われました。種々懇談と歓迎の意が表されましたが、当日の主要会席者は次の通りでした。

サンチス新大使、リード商務参事官、荒船中南米局長、斉藤会長、近藤(四郎)、近藤(鎮雄)両副会長、山下東宮侍従長、藤本元駐ア大使。

◎サッカー

本年アメリカ合衆国で行われるワールドカップ本大会への出場を賭けたアジア最終予選で、日本代表チームは後一步のところでは手が届かず、残念な結果となりましたが、アルゼンチンは、オーストラリアとのプレーオフの結果、アメリカ大会への出場を決めています。

さて、今回も前回に続いてJリーグで活躍するアルゼンチン選手の紹介をしたいと思います。

横浜フリューゲルスのもネールは1967年生まれの26歳。15歳のときにSan Lorenzoとプロ契約、20歳でトップチームに登録されましたが、翌年、横浜フリューゲルスの前身である全日空サッカークラブチームに移籍、日本リーグのベストイレブンに選ばれるなど活躍を見せました。その後は一端、スペインリーグに移りましたが、Jリーグの開催と共に横浜フリューゲルスでプレーするために戻ってきました。

もネールは185cmの長身を生かしてヘディングが得意なディフェンスの選手です。またバックラインからドリブルでボールを前線につなぐ、ワンツープアスでボールを貰いシュートをする、またコーナーキックなどのチャンスにはゴール前に上がりヘディングでゴールを狙う、など味方の攻撃にも積極的に参加するプレイヤーです。ゴールを決めた後の彼の“ヒップダンス”を見た方々もいらっしやるでしょう。

唯、時折ラフプレーの為にイエローカードを貰うこともしばしば。天皇杯でも準決勝までに3枚のイエローカードを貰った為に決勝戦には出場出来ませんでした。現在はシーズンオフの為、アルゼンチンに帰国しているとの事ですが、'94

のJリーグでも元気な姿を見せてくれるでしょう。

浦和レッズダイヤモンドズに所属していたトレビソンノ（ディフェンダー）は、1966年6月生まれの27歳。アルゼンチンリーグではPosario Centeal, Independienteでプレーし、昨年Jリーグに参加する為に来日しました。

レッズにはトレビソンノの他に2人のアルゼンチン選手が来日していましたが、チームに馴染めずに既にチームを去っており、そしてまた残念ながら、トレビソンノも浦和レッズが彼と契約を継続する意思がない為に退団しました。

でもまだまだ若いので、何処かで元気にプレーを続けてくれることを願います。

一方、明るい話題もあります。前回紹介したディアス、ビスコンティが活躍する横浜マリノスに3人目のアルゼンチン選手が入団しました。グスタボ サバタ。25歳の現在アルゼンチン代表のミッドフィルダーで、Jリーグ初代得点王に見事輝いたディアスに呼ばれRiverからマリノスに来日しています。また横浜マリノスがRiver Plateと相互のチーム力アップで協力し合うべく契約したということですから、今後、マリノスの若手選手がRiverでプレーしたり、Riverが親善試合の為に来日する可能性も・・・。乞御期待！

◎タンゴの店めぐり（紹介）続

会報第1号では「カンデラリア」と「ミュージック サロン エストレジータ」を、
本号では「ラ・クンパルシータ」をご紹介します。

店 名 ラ・クンパルシータ

業 種 炭火やきとり

場 所 豊島区北大塚1-16-7 千代田ビル1F

電 話 03-5394-6680

開店日 2月1日 PM5:00

営業時間 PM5:00～PN11:00 年中無休

日ア協会会員は20%割引にさせていただきます。

『店主の言葉』

私の店は屋台のように何も装飾の無い形ですので恐縮ですが、タンゴの情熱と焼き鳥屋の騒々しさが日垂の文化交流に結実すればと手前勝手に存じております。世界中が大きく変革を迎えている時の民間文化交流の実験版です。

以上のような心意気で頑張りますので、よろしく願い申しあげます。

ご参考

ラ・クンパルシータを経営する World Enterprise ㈱は当協会の法人会員です。

あ と が き

国内、国外ともに景気低迷にあえいでいる折柄、メネム大統領一行の訪日は、久し振りに将来に向けての一つの明るい話題を提供しました。会報第3号も亦その軌跡の総とりまとめを主眼としました。

編集委員各位の労に謝意を表します。

(2)巻頭文に次いで記した「賛助会員の募集」については、執行部関係者の討議を通じての合意に基づきました。次号に於てよい成果を報告できることを願っております。

(3)次の会報（第4号）は3月下旬～4月中旬に発行を予定します。

以上